

こ ん に ち は、 小 川 あ き ら で す。

きらきら通信

秋号

2023.11月

議会報告

豆知識

山本県政の2期目がスタート

女性の視点で活動しています。

女性県議とコーヒータ임

ぐんま女性議員政策会議

健康福祉常任委員会

こんな質問をしました！

自転車アンケートのお願い

議会がない間も調査・研究の日々…！

インクルーシブな社会を目指して

【「ひらく」～アートで世界をひらき、つなぐ】レポート



ご挨拶 2023年秋

朝晩めっきり涼しくなりました。もうすぐ冬の足音が聞こえてきそうですね。皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

新型コロナウイルスが5類に移行したこともあって、今年の夏は各種行事やイベントが一気に復活。納涼祭や花火大会、お祭り、スポーツ大会など4年ぶりの開催に多くの人で賑わっていましたね。活力ある社会を取り戻すとともに、感染症や災害に強い医療体制の構築、地域活動の重要性、学びや仕事を止めないためのオンラインやテレワークなどの推進など、長く続いたコロナ禍で得た経験を今後のまちづくりや行政サービスにしっかりと活かしていきたいと思います。

さて、県議会では山本知事の2期目がスタートしました。引き続き是々非々の立場で、知事の県政運営をしっかりとチェックしていきます。世界に目を向けると、ロシアのウクライナ侵攻に続いて、パレスチナ情勢の緊迫化など、平和が脅かされる事態が続いています。今こそ、「支さえ合うこと」「助けあふこと」「つながること」を大切に、多様な県民・市民の声が届く政治を実現していきましょう。

議会報告

令和5年第3回定例会が9月20日から12月14日までの会期で開催されています。前期議会では、価格高騰の影響を受ける酪農家への支援や「TUMOセンター」のIT教育機関プログラム導入に向けた費用、保育所等感染対策、デジタル橋梁劣化調査に係る費用など総額323億円の9月補正予算案を可決しました。また、診療報酬、介護報酬及び障害福祉サービス事業所の報酬改定において物価高騰の影響や賃金の状況を適切に反映することを求める国への意見書も可決しました。

※「TUMOセンター」とは…アルメニアにある若者向けのIT(情報技術)教育機関です。

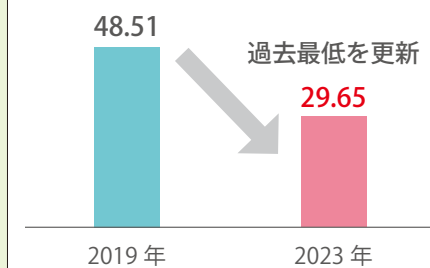
山本県政の2期目がスタート

県議会の豆知識



7月に行われた群馬県知事選挙の結果、山本知事が再選しました。8月10日に召集された臨時議会では、「新型コロナや豚熱、鳥インフルエンザなどの対応に追われた守りの1期目から、2期目は①県民の幸福度向上、②新群馬の創造、③群馬モデルの発信といった基本政策に基づいて攻めの取り組みを行っていききたい」という所信表明がありました。インクルーシブ教育の推進、公共交通政策やグリーンインベーション、リトリートの聖地など注目の事業をしっかりとチェックしていきましょう。

知事選の投票率



女性の視点で活動しています。

女性県議とコーヒータ임

ヒューマン政経フォーラム主催のお話し会が、7月15日に高崎で、9月9日に前橋で開催され、鈴木あつこ県議と一緒に参加しました！

第1部は大学生ファシリテーターによる質問形式のトークショー。政治に関心をもったきっかけや、議員になって分かったこと、挫折した体験、どうすれば政治を自分事にするか、どんな社会を実現したいかなど、ぶっちゃけトーク。第2部のグループディスカッションでは、障害福祉政策のこと、若者が政治に関心を持つにはどうしたらよいか、教育の無償化や奨学金返還支援について、議員の活動を知る方法、困っていることや課題を解決するにはどこに相談したらよいのか、山本知事と対峙する方法、知事選(首長選)の投票率の低さと自民党以外の対抗馬が出づら原因について、国政と地方議会の違い(国政には興味がないのか?)、リーダーの資質とは?など、様々なテーマで意見交換することができました。

大学生が参加してくれたり、初めてお会いする方も多く、とても充実した有意義な時間となりました。多様な主体が活躍できる社会を目指して、気軽なお話し会を続けていきたいですね！



主催していただいたヒューマン政経フォーラムの皆さま、そして、会場をお貸しいただいたあすなろさん(高崎)、クラブティエリさん(前橋)、ありがとうございました♪



ぐんま女性議員政策会議

県内の女性議員有志で構成するぐんま女性議員政策会議の令和5年度総会と研修会を開催しました^^

女性議員政策会議では党派を超えて女性議員のネットワークをつくり、情報共有や議会活動の支援、女性議員を増やす活動などを行っています。4月の統一選挙で県内の女性議員もかなり増えて、心強いですし、地方議会では生活に密着した女性の視点が特に重要なので、女性議員がしっかりと活躍できる環境を整えていきたいですね！研修会では、群馬県警本部長(当時)の小笠原さんから【子どもを虐待・性暴力から守る～私たち大人のすべきこと～】、群馬県庁DX推進監の岡田さんから【群馬県のDXの現状と市町村との連携について】をテーマにご講演をいただき、参加者からは各自治体の実情に基づいた活発な意見が交わされました。

(時間が全然たりないくらいバンバン質問が出るのもこの会の良いところ♪)

性教育も自治体DXもそれぞれの自治体で取り組めるところがたくさんあるので、しっかりと議会提案につなげていってほしいです。



はじめてのパラグライダー体験



ゲートキーパー講師の皆さん



障害者芸術文化活動支援センター
開設記念シンポジウム



連合群馬×連合議員懇意見交換



県立近代美術館ゲルニカの
タペストリーを観に。



長岡泰都個展



共愛バザー



すずかけさんにお邪魔しました

健康福祉常任委員会

～こんな質問をしました！～

● ヤングケアラー普及啓発事業（265万円）について

6月にヤングケアラーのワンストップ相談窓口を開設したものの、当事者からの相談件数は6月は2件、7月8件、8月1件と少ない状況です。昨年県で実施した実態調査では小学校で5.7%、中学校で3.7%のヤングケアラーがいるので、当事者に届くような周知啓発を要望しました。

お世話をしている家族が「いる」割合の一覧					
小学6年生		中学2年生		高校2年生	
群馬県	国	群馬県	国	群馬県	国
5.7%	6.5%	3.7%	5.7%	2.9%	4.1%

● 性暴力被害者支援について

「性暴力被害者支援サポートセンター Saveぐんま」に寄せられている相談件数は、ここ数年増加傾向にあり、昨年は991件と過去最多となっています。



現在4人の職員で対応しているものの、相談件数の増加に伴い、職員一人当たりの負担も大きくなってきているので、人員増を要望しました。また、小児や男性の被害者の相談も

受けられるように、小児科や泌尿器科との連携体制の構築や医療的なスーパーバイズの導入についても提言しました。

併せて、性犯罪予防についての取り組みの重要性についても質疑しました。Saveぐんまで作成している予防コンテンツはとても良い動画なので、子どもから大人まで多くの人に見てもらいたいですね！



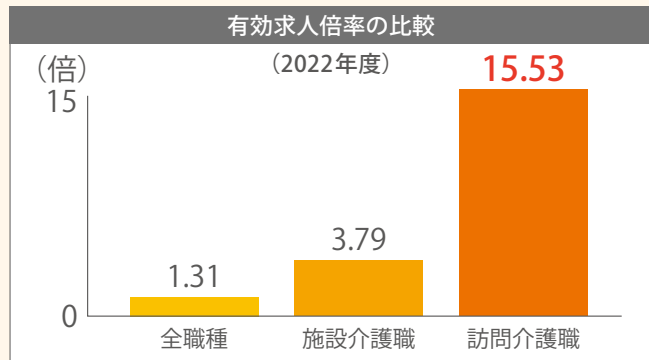
動画は
こちらから



● 訪問介護事業所の現状と課題について【高齢者福祉】

県内の事業所数は523か所、サービス利用者は13,416人と、ここ数年横ばいになっているとのことですが、地域によっては事業所の廃止によりサービスが不足しているところも…。

施設介護に比べて仕事がハードな割に収入が低いので、ヘルパー人材の確保はとにかく大変です。県では、少しでも収入アップに繋がるように事業所の皆さんが加算を取る際の事務手続きの支援（派遣事業）を行っており、昨年は26事業所で支援を実施したとのこと。地域包括の要となる訪問介護サービスがどの地域でもしっかりと提供できるように引き続きのサポートを要望しました。



● 障害者の重度訪問介護について【障害政策】

県内の令和5年3月の利用者数は56人、支給時間は13,927時間で、全国的な割合に比べると重度訪問介護の利用者がかなり少ない状況となっています。登録をしても人材不足などの理由で実際のサービス提供をしていない事業所もあり、利用したくても重度訪問介護を利用できない当事者がいるかもしれないという現状が明らかになりました。実態把握も含めて県内の状況を丁寧に調査していただくよう要望しました。

● 強度行動障害児の受け入れ可能な放課後等デイサービスについて【障害政策】

県内の放課後等デイサービスで強度行動障害児支援加算を受けている事業所は54か所で、放デイ全体から見ると1/6程度となっています。身近な事業所に通えるように受け入れ可能な事業所を増やすためのハード整備や人材育成に取り組んでいただくとともに、強度行動障害のある児童については土曜日も受け入れてもらいたいという要望も多いことから、土曜のサービス提供についても何か支援ができないか、検討をお願いしました。

※強度行動障害とは…自分や周りの人を傷つけたり、ものを壊したりといった行動が頻繁に起こるため、特別な支援が必要な状態のことを指します。強度行動障害の状態にある人は全国に延べ7万8,000人以上いるといわれ、受け入れの負担が大きいなどの理由から施設の利用を断られるケースもあります。



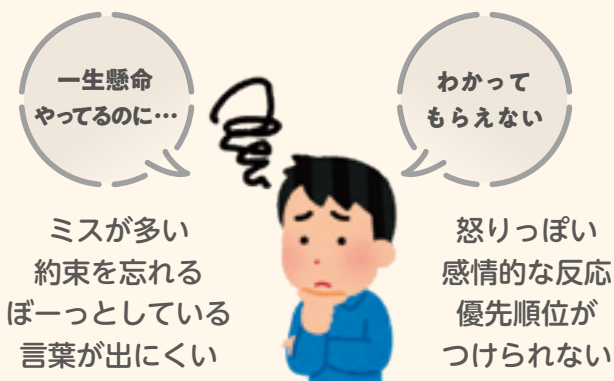
● 高次脳機能障害について【障害政策】

「高次脳機能障害」は脳卒中や交通事故など何らかの原因で能を損傷した後に起こる障害で、記憶力や集中力に影響が出たり、感情のコントロールができなくなったり、やる気が起きなくなったりと様々な症状が出ますが、周囲からわかりにくい「見えない障害」とも言われています。

高次脳機能障害については、前橋日赤が相談拠点機関になっており、年間で1,100件（実人数150人）の相談を受けているとのこと。相談窓口から必要な地域資源にも繋いでもらえるということで、当事者やそのご家族に相談窓口の周知を行っているとのことでした。高次脳機能障害自体があまり知られていないため、会社や周囲に理解されず社会復帰に悩んでいる当事者もいるのではないかと懸念されています。地域や就労支援機関、民間企業への周知啓発についてしっかり取り組んでいただくよう要望しました。

なお「NPO法人ノーサイド」や「ぐんま脳損傷地域拠点プロジェクト」など民間で支援活動、講演会活動を行っている団体もあります。当事者・家族向けの講演会も開催されるので、興味のある方は是非ご参加ください。

高次脳機能障害支援



自転車アンケートのお願い

2022年の中高生の通学時における自転車事故発生件数が全国ワースト1の群馬県。（高校生は9年連続です）

通学時の1万人当たりの自転車事故件数の順位 (2022年)

中学生			高校生		
順位	都道府県	件数	順位	都道府県	件数
1(1)	群馬	32.03	1(1)	群馬	93.63
2(2)	香川	16.30	2(2)	静岡	56.67
3(4)	佐賀	13.07	3(3)	徳島	43.27
4(3)	徳島	11.80	4(6)	愛知	39.96
5(6)	岡山	10.53	5(9)	埼玉	30.80

かつて内は前年の順位



安全な通学環境を整えるためには、ハード面の整備だけでなく、車と自転車双方の意識啓発も大切です。自転車の逆走時の事故が多いので、自転車に乗る方は左側通行を守りましょう。ドライバーのみなさんは「かもしれない運転」を心がけてくださいね！

交通安全対策の参考とするため、県民のみなさまの自転車保険の加入状況とヘルメット着用状況について、アンケートを実施しています。

是非ご協力をお願いいたします
(氏名の登録は不要です！)



ちなみに、ヘルメットの着用率は全国3位とこちらは嬉しい数字になっていますね！

(2023年7月時点。
全国平均は13.5%)

自転車用ヘルメットの着用率

着用率高い

1. 愛媛 … 59.9%
2. 大分 … 46.3%
3. 群馬 … 43.8%
4. 鳥取 … 30.9%
5. 三重 … 26.5%

議会がない間も調査・研究の日々…！

【健康福祉常任委員会の県外調査】 2023.7.11～13

1日目 神奈川県にて、社会福祉法人愛川舜寿会が運営している『カミヤト凸凹保育園』と『春日台センター』にお邪魔しました！
『カミヤト凸凹保育園+ plus』は、0才児～5才児までの保育園と0～18歳を対象とする文化教室（児童発達支援＋放課後等デイサービス）を併設している施設で、障害のあるなしにかかわらず共に過ごすインクルーシブ保育を実施しています。
園内は自由に行き来できるような回廊型になっていて、子どもたちは自分でやりたいことを見つけて、方法を考えて、問題が起これば解決方法を探すのだそう。おやつ時間もお昼寝の時間も誰とどこで遊ぶのかも自分で決めるというように、とにかく子どもの主体性を大切にしている、ああしろこうしろ、これはダメだという指示は一切ないとのこと。
また、障がいの有無や国籍、年齢の違う子どもたちが、幼少期から同じ空間で過ごし、互いを認め合うことで、寛容と共生の大切さを自然に身につけていけるというのが印象的でした。



カミヤト
凸凹保育園



続いて訪問した『春日台センター』は高齢者グループホームや障害児デイサービス、障害者就労支援（コロケスタンド、コインランドリー、洗濯デリバリーサービス）、コモンズルームや寺子屋なども併設する施設で、もともと

と商店街の一角だった場所ということもあり、地域の子どもたちや高齢者の皆さんがたくさん集まって交流していて、とっても賑やかな場所です。
高齢者や障害者の福祉施設でありながら、子どもたちの居場所にもなっていたり、地域の人たちの交流の場所にもなっていて、地域共生の拠点として機能しています。
どちらの施設も、多様な人がそれぞれのペースで自由に過ごしていて、ダイバーシティやインクルーシブを皮膚感覚で感じることができました。
こんな場所が群馬にもたくさん増えると良いな～と、学びの多い1日となりました。



春日台
センター



2日目 午前中は神奈川県庁で、ケアリーバー支援の取り組みについて調査。神奈川県では、平成25年から「あすなろかながわクロスファンクション連絡会議」を設置し、児童福祉施設退所後の子どもたちの支援について検討を始め、翌26年には、退所児童に対する相談や交流の場所などを設定する「あすなろサポートステーション」を開設しています。
コロナ禍を経て、精神保健や法律相談等の専門相談が増大していることなどから、近年では公認心理士や弁護士等の配置やアウトリーチの強化など、さらなる機能強化を図っているとのこと。
この7月からは、あすなろサポートステーションサテライトという2箇所目の拠点を設置して、身近な地域で相談できる体制を整えているそうです。

群馬県でも今年度から一般社団法人「ヤング・アシスト いっぽ」さんにケアリーバーの相談や生活のサポートを委託していますが、いつでも立ち寄って相談できる場所、心の支えになる場所が大切ですね。



ヤング・アシスト
いっぽ



午後は【神奈川県立こども医療センター】を訪問し、施設内の見学と取り組み内容について調査しました。
こちらは、総合医療、内科、外科、周産期、こころの医療のほか、肢体不自由児施設や重症心身障害児施設といった福祉施設、さらには県立横浜南養護学校を併設した小児専門の総合病院となっています。
子どもたちが治療を前向きに捉え、自尊心を保てるように寄り添ってくれるファシリティドッグや医療チームの一員としてお子さんやご家族に心理的支援をするチャイルドライフスペシャリストなども導入していて、その効果についても伺うことができました。



またきょうだいの支援にも取り組んでいて、きょうだい預かり、きょうだい面会、きょうだい主役になるイベントなどを実施しているそうです。
群馬県では、小児医療センターの建て替えに向けて、今年と来年でマスタープランを作成する予定です。
現場の皆さんから伺った貴重なお話をしっかりと活かしていきたいですね。



ファシリティドッグの紹介



3日目 最終日は東京都港区にて、元麻布保育園における医療的ケア児の支援体制について伺いました。
令和2年1月に開設した元麻布保育園では、0歳児から5歳児までの通常クラス（188人）の他に、医療的ケア児・障害児クラス（20人）を設置し、医療的ケア児・障害児の集団保育を実施しています。

元麻布保育園（医療的ケア児・障害児クラス）の入園のお知らせ



港区議会で平成19年に医療的ケアを必要とする児童の受け入れを求める請願が採択されたことを受け、慎重に議論を重ね、この保育園の開園に至ったとのこと。
令和5年4月時点では、8人の医療的ケア児を受け入れており、児童1名につき保育士又は看護師が1名配置されています。
受入れ準備段階から、ご家族への丁寧な説明、住まいの状況の把握（送迎する時の車の待機場所や雨天時の対応など）、医師や関係機関との連携など、入念な手順を踏んでおり、安全・安心な保育環境の提供を行っていることがよく



わかりました。
群馬県内でも、医療的ケアが必要なお子さんたちの預け先がなく、苦労しているというお話をお聞きすることがあります。群馬県内の施策にも活かしていきたいですね。



【リトリート・温泉文化に関する特別委員会の県外調査】
2023.9.6～8

1日目 初日は香川県にて、「うえむら農園出荷組合」のホワイトアスパラガスの生産出荷の取り組みや県の農産物ブランド化について調査しました。

うどんとオリーブが有名な香川県ですが、現在アスパラガスのブランド化にも力を入れており、「さぬきのめざめ」というオリジナル品種の育成や単価の高いホワイトアスパラガスの生産に積極的に取り組んでいるそうです。

お話を伺った「うえむら農園出荷組合」では、環境負荷の少ない減農薬のアスパラを生産する12戸の農家が集まって出荷量の安定的な確保や販路拡大にチャレンジしています。こちらのアスパラは香川県が高品質な野菜を認証する「さぬき讃ベジタブル」も取得しているとのこと。

「さぬき讃ベジタブル」の認証制度はまだ始まったばかりで、取引価格に反映させるには今後さらなる周知や販路拡大が必要であることや減農薬野菜も値段が高いと消費者に購入してもらえないといった課題も共有させていただきました。

「食」は、日常の生活でもリトリート推進の中でも大事なテーマです。生産者の支援からブランド化による付加価値の向上、観光政策との連携までしっかり取り組んでいきたいですね。



2日目 徳島県は三好市の祖谷地域にて、リトリートと温泉文化の推進について調査しました。

最初に訪れたのは「桃源郷祖谷の山里」。

山道をひたすら（2時間以上）進んだところにある落合地域は、標高差約390mの急斜面に民家や石垣、畑がはり付くように広がっており、集落全体が重要伝統的建造物保存地区に選定されています。こちらでは8棟の空き家を茅葺古民家として再生し、宿泊施設として活用しています。コロナ前には年間2,500～3,000人弱の宿泊利用があったそうです。

きっかけとなったのは、東洋文化研究家のアレックスカー氏が、集落の景観や歴史的価値を高く評価し、現存する茅葺き民家を現代に伝えるために築300余年の茅葺の家を宿泊施設として整備したのがはじまりとのこと。

日本の伝統的な景観や歴史、文化を求めたインバウンド需要が多いことから、外国人向けのプロモーションや長期滞在に向けた地域資源の活用に力を入れていきたいとのこと。消滅の危機にある集落や文化財の景観を守ることが、地域経済の活性化や雇用の創出にもつながる良い事例ですね。



桃源郷祖谷

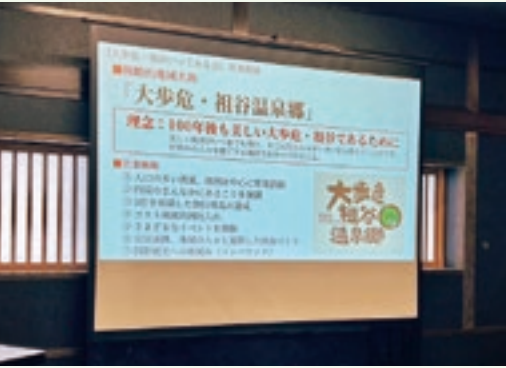


続いてお邪魔したのは日本三大秘湯のひとつ「祖谷温泉」。

切り立った山々の奥深く、ケーブルカーで170メートル下ると谷底に温泉露天風呂があるという、本当にすごい立地です。

近隣には祖谷温泉を含め5件のホテルがあつて、合併により三好市となったことを契機に、5件のホテルで「大歩危・祖谷いってみる会」を設立。現在はタクシー、バス、

観光施設、酒蔵など賛助会員30社も加わり、行政とも連携して「大歩危祖谷温泉郷」という名前を売り出したり、ホテルで必要な備品の共同購入に取り組んでいるそうです。



大歩危祖谷温泉郷



ホテルや事業者が個で努力するだけでなく、地域でまとまって連携することで地域全体のブランド力を上げることができる。それで集客が増えれば、スタッフの自信にもつながる。将来的な温泉文化の担い手確保にも期待したいですね。

いずれにしても、この祖谷地域は、桃源郷や秘境という言葉のイメージどおりの山奥で、現地に行くまでのハードルをほんの少し感じました。

群馬県内の温泉地や秘境宿は、こちらに比べるとアクセスも良く、短期滞在も長期滞在も過ごしやすいのではないかなど。地域全体の取り組み強化と、伝統的な景観や歴史、文化、それを支える感性や人の魅力を高めていく重要性など、群馬県にしっかり持ち帰りしたいと思います。



3日目 最終日はサテライトオフィス先進地、徳島県神山町にて、サテライトオフィスの活用状況や課題などを調査しました。



徳島県では、平成24年に地域・NPO・進出企業・行政等で「とくしまサテライトオフィス・プロモーションチーム」を結成し、サテライトオフィスの誘致に積極的に取り組んでいます。その先駆けとなったのが神山町。神山町では地デジ化に伴い町内全域にインターネット環境が整備されたことを契機に、NPOが中心となって神山アーティスト・イン・レジデンス（KAIR）やサテライトオフィス支援事業などを実施。名刺管理サービスの「Sansan」が2010年にサテライトオフィスを設置したのを皮切りに、IT関連やデザイン関連企業などが次々にサテライトオフィスを設置しているそうです。

in Kamiyama



ITベンチャーや若者・移住者が増えたことで、宿泊施設の整備や地域の交流イベントの開催など地域課題の解決にも良い影響を与えており、この春には民間企業が中心になって起業のための学校「神山まるごと高専」も設立され、消滅可能性地域から一転、全国から注目される田舎町になっています。

群馬県でも移住促進やワーケーションの推進に取り組んでおり、引き合いも多いのですが、その先の地方再生につながるようなヒントをたくさんいただきました。

【リベラル群馬・会派視察①（福祉関係）】
7/20～21にかけて、一泊2日の会派視察。
（私は諸事情により日帰り×2日でしたが）

1日目は初日は東京都瑞穂町の【社会福祉法人コロロ学舎（瑞学園）】にお邪魔しました。
こちらは知的障害や自閉スペクトラム症の方々の入所・通所施設で、集団歩行やダイナミックリズム、日々の生活にあえて変化をつけて耐性を身に付けるといったコロロメソッドによる自閉症療育で大きな実績をあげています。当日もダイナミックリズムの様子を拝見させていただきましたが、集団行動が苦手と言われている自閉傾向を持つ人や強度行動障害のある人も、集団で一斉に同じ動きをすることで「今、何をすべきか」が視覚的に理解し、耐性や情動のコントロールができるようになるそうです。一般に個別療育・個別支援が望ましいと言われているものの、こういう集団での療育・支援があることを今回はじめて知りました。
当事者とご家族にとってはいろんな情報と選択肢があることが大切ですね！
群馬から車で1時間ちょっとのコロロ学舎（瑞学園）。気になる方は是非、見学・体験に出かけてみてください。



2日目は千葉県八千代市の【52間の縁側のいいさん家】へ。
52間の縁側という名の通り、約80メートルの細長い建物に縁側がついている素敵な外観。こちらでは、宅老所（民間デイサービス）をメインに子供たちの遊び場や寺子屋、地域のイベントなどを行っていて、今後は訪問看護事業やカフェ事業も予定されているそうです。
デイサービスの利用者がそれぞれの気に入った場所でスタッフの方と楽しそうにお話したり、あるいはお風呂に入ったり、お昼寝したり、ありのままに過ごしているのが印象的で、さらには近所の子どもたちが駆け回り、利用者さんやスタッフの皆さんとも声を掛け合っている姿がなんとも微笑ましいですね。
いわゆる老人介護施設では食事や入浴など、1日の行動が決まっていることがほとんどですが、こちらの施設では、誰もが自分の家にいるようにゆるやかに時間を過ごしていて、みんなの交流と居場所になっていることがよくわかります。
建物の作りはいわゆる「動線」を全く意識していない作りになっていて、柱に頭をぶつけそうになったり、縁側から落っこちそうになったり、お風呂から出た場所がテラスなので冬は寒いんじゃないかな、と思ったり。でもこの不便の中からは、「ぶつからないように気をつけてね」「寒くない？大丈夫？」など豊かなコミュニケーションが生まれるのだそう。
誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるごちゃまぜ社会。群馬でも広げていきたいですね！



【リベラル群馬・会派視察②（新潟編）】 2023.8.25

新潟県は今年日本一暑いと言われている新潟市秋葉区にて、「おらって」にいがた市民エネルギー協議会の白井さんが行っている無煙炭化器を利用した炭焼きと、炭による炭素の地下貯蔵（CO₂削減）や資源循環型農業の取り組みについて調査しました。
白井さんが使用している無煙炭化器は高効率で炭を生成できるもので、実際に私たちが作業した30分くらいであっという間に炭が完成！
新潟県ではこの無煙炭化器の活用が広がっているそうで、江南区や南区、一部のJAでは購入補助や貸し出しなども実施しています。もともとこの地域は果樹生産が盛んな地域である一方、近年は剪定枝の野焼きによる煙害の対応が課題になっていたそうです。そこで、煙が少なく低コストな無煙炭化器の貸し出しをモデル的に実施したところ、有効性が確認されて4年間で200台以上普及しているとのこと。
煙が出ないだけでなく、炭化器の使用は火災予防にも有効であること、また炭は土壌改良や収量アップにもつながること、さらには活用温室効果ガスの削減にもつながり、良いこと尽くめですね！



調べてみると、新潟県のほかにも、山梨県、福岡県北九州市、福島県福島市、鹿児島県大崎町などでも無煙炭化器の貸し出しや補助事業を実施しており、SDGsや肥料高騰対策など様々な観点から注目を集めていることがわかります。群馬でも取り入れられないか、さらに調査してみます。

続いて新潟県庁にて、産業労働部地域産業振興課が実施している「価格高騰対策設備導入補助金」の制度概要や実績等について調査。

価格高騰対策設備導入補助金



この制度はエネルギー価格高騰の影響を受ける機械設備について、エネルギー使用量がより少ない設備への切り替えを支援するもの（補助率2/3以内）で、昨年から実施しているとのこと。
新潟県では県内な企業に対して定期的にアンケートを実施しニーズ調査をしており、昨年からのエネルギー価格高騰に対しては省エネ設備の更新を望む声が多かったことから、県事業として設計したそうです。
申請件数は令和4年が228件、令和5年は379件で、飲食サービス業や製造業など幅広い業種からの申請があり、空調や冷凍冷蔵設備などの更新に利用されています。
申請するには「新潟県エコ事業所表彰制度」に参加することも要件となっていて、エコ事業所にはCO₂削減計画の策定（前年比1%減が目標）と毎年報告が求められるとのこと。

新潟県エコ事業所表彰制度



原材料やエネルギー価格の高騰で中小企業の皆さんは本当に苦しい状況に置かれています。企業に寄り添った支援策をしっかりと考えていく必要がありますが、今回の調査では省エネ設備の更新はもとより、アンケート調査の実施方法や省エネ診断の活用など、たくさんのヒントをいただきました。さっそく群馬県でも提案したいと思います！



【リトリート・温泉文化に関する特別委員会の県内調査】

2023.8.22

特別委員会の県内調査で尾瀬ヶ原へ。リトリート旅の検証と木道整備や鳥獣害対策の現状について調査しました。

尾瀬はマイカー規制をしているため、尾瀬戸倉に車を置いて、バスで鳩町峠まで行き、そこからおよそ1時間かけて山の鼻ビジターセンターへ。ビジターセンターで説



明を受けた後、いざ尾瀬ヶ原へ出発です。

山ノ鼻から木道を進み、原の川上川橋を過ぎると視界が一気に開けて、広大な尾瀬ヶ原が目の前に広がります。奥にそびえる燧ヶ岳、背後には至仏山。

木道沿いには様々な植生や池塘を見ることができ、ガイドさんから尾瀬の成り立ちなどを伺いながら、下ノ大堀の辺りまで歩きました。

見渡す限りの大自然に心地よい風が吹き、尾瀬ヶ原を満喫。私は何年かぶりの尾瀬でしたが、実際に現地に来なければ分からない魅力がたくさんあることを改めて実感しました。

福島、群馬、新潟、栃木の4県にまたがる尾瀬国立公園は全国で29番目の国立公園で、総面積の半分近くが群馬県側にあります。

尾瀬の優れた景観と自然環境は文化財保護法の「特別天然記念物」、自然公園法の「特別保護地区」に指定されているほか、ラムサール条約湿地にも登録されていて、近隣の片品温泉郷や食事と相まって、癒し旅（リトリート）にピッタリですね！

一方で、尾瀬の環境保全と入山者の安全確保のための登



山道（木道）の整備や、ニホンジカの増加による植生被害・湿原の踏み荒らし対策など、課題も残されています。

木道については、今日もところどころ、穴が空いていた板が外れていたりと修繕が必要な箇所が見受けられましたが、国も県も十分な予算が確保できておらず、毎年少しずつ修繕しているという現状です。

毎日木道を歩いて荷物を運んでいる「歩荷」の萩原雅人さんが、木道修理のための費用をクラウドファンディングで集めて、群馬県に1,150万円を寄付してくれたことは本当にありがたいことですが、尾瀬の環境保全のための予算やボランティア作業などに民間・個人の皆さんの力を借りていくというのも大切な視点ですね！



※偶然萩原さんにもお会いできました。

シカ対策については、尾瀬の代名詞でもあるミズバショウを食べてしまったり湿地を踏み荒らしてしまったりと、ここ数年大きな問題になっていますが、優先防護エリアを選定し、そのエリアをぐるりと囲む植生保護柵を設置してシカの侵入を防ぐという対策が効果をあげているようです。



他にも、尾瀬では環境に負荷の少ない浄化槽タイプの公衆トイレを設置しており、利用者には一回100円の使用料（チップ）を求めているものの、実際には約半数の回収しかできていないとのこと。

尾瀬の魅力を後世に伝えていくために、国、県、地元自治体でできること、民間にできること、私たち一人ひとりにできることを改めて考えていきたいですね！

いずれにしても、誰もが知っている尾瀬ですが、「最近行ってないな〜」「実は行ったことないんだよな」という方は、是非一度、現地に足を運んでみてはいかがでしょうか？

帰りの山ノ鼻から鳩町峠までの登りは修行のようですが、達成感もあって、感動の癒し旅になること間違いなしです^^



県では「ゆっくり自分自身と向き合うための3泊4日のリトリート旅」のモデルプランを作成しています。

それぞれの地域の特色を存分に生かしたプランの中には、今まで知らなかった群馬の魅力もきっとみつかります！

（万座の白と黒のハンドメイド温泉は知らなかったな〜！）

群馬県のリトリート情報は
こちらのサイトからご覧ください。



インクルーシブな社会を目指して

「ひらく」～アートで世界をひらき、つなぐ

レポート

前橋市内のカフェやお店、公共施設などに障害のある作家さんのアート作品を展示し、アートを通じたインクルーシブな社会の実現を目指した「ひらく」アート展が8/1から8/29の期間で開催されました。主催のNPO 法人麦わら屋をはじめ、光明園（あそか会）や若葉学園、個人出展の作家さんたちのアート作品で前橋じゅうが彩られた1か月。各会場の様子とフィナーレイベントの様子をレポートします。

市内15か所がアート会場に！

1 MOO カフェ

メイン会場の一つ。期間中、アートグッズの販売やワークショップも行われました。



2 JINS PARK

おしゃれな店内に色鮮やかな作品が映えますね！



3 スターバックスコーヒー敷島公園店

スターバックスでは麦わら屋さんの長岡泰都さんの作品を入れ替えて展示。



4 ココルンシティプラリネロゼ前橋店

カフェとアートの相性は抜群です。



5 HUTTE HAYASHI CAFÉ

赤城の大自然の中で、アート鑑賞。癒しのひととき。



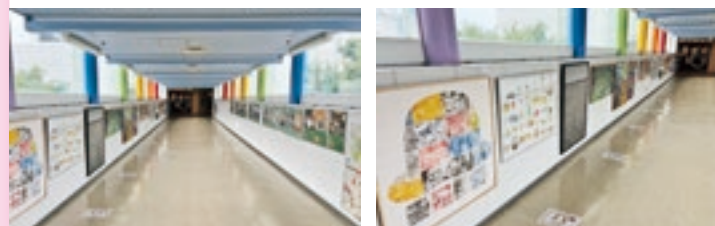
6 林牧場 福豚の里とんとん広場

アート鑑賞の前においしいとんかつで腹ごしらえ(*^_^*)



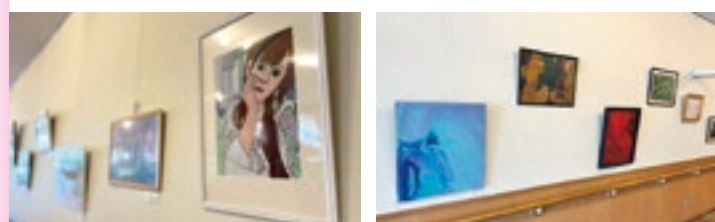
7 前橋プラザ元気21

連絡通路が賑やかに！多くの人に鑑賞していただきました。



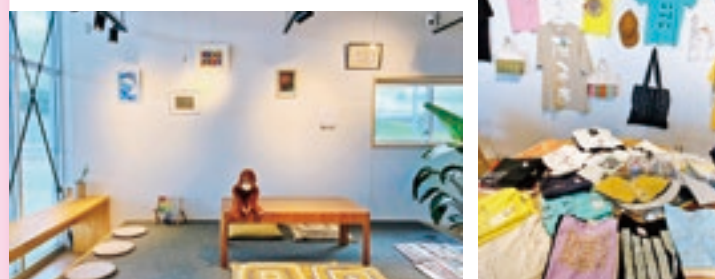
8 前橋総合福祉会館

通路が一気に華やかになりました。みんなの店では障害者施設で作ったパンやグッズが購入できます。こちらも是非ご覧ください。



9 SHOP CAFÉ Qu

道の駅まえばし赤城内にある福祉ショップ。おしゃれな店内でコーヒーや軽食もいただけます。「ひらく」アート展と同じ期間にTシャツコレクションも開催していました。



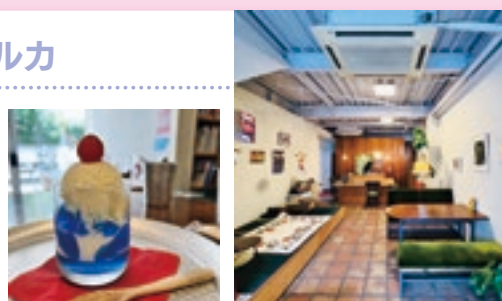
10 なないろ base

木金土営業のつむぎ食堂。気まぐれランチとやさしいアート作品を楽しみました。



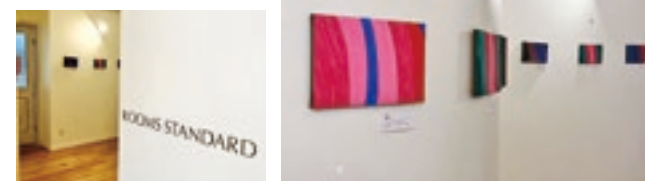
11 喫茶マルカ

馬場川沿いの喫茶店。店主とお話しするのも楽しいです。



12 ROOMS STANDARD

元総社町にあるコワーキングスペース&シェアオフィスです。麦わら屋さんの作品が素敵に展示されていました。



13 ヒロセーヌパドル

広瀬川沿いを歩いていると現れるパン屋さんとレンタルスペース。パンとコーヒーとアート。最高です♪



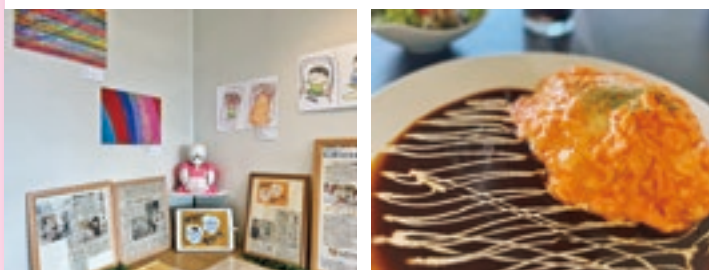
14 本の家2

店内には素敵な絵本がいっぱい！アート鑑賞と絵本鑑賞でいつい長居してしまいました。



15 笑顔の集まる洋食屋さん はっぴーすまいる。

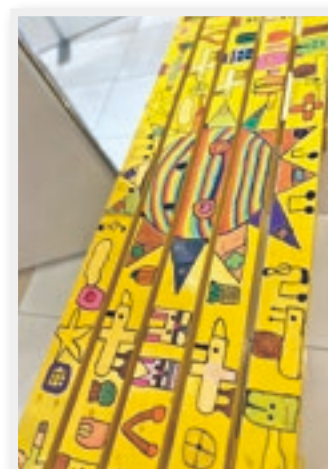
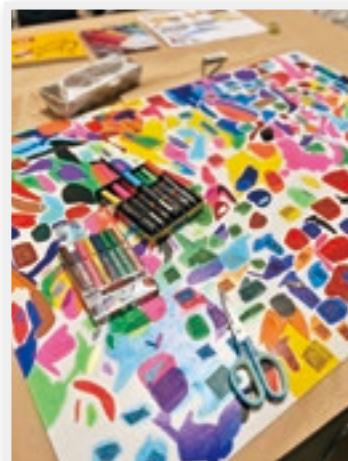
オリヒメロボットで萩原やよいちゃんが働いているオムライス屋さん。オリヒメの右隣に展示してある作品の作家さんが、なんとやよいちゃんのお友達だったという偶発の再会も♪



クランドフィナーレ@けやきウォーク前橋

けやきウォーク前橋のフィナーレでは、作品展示や様々なワークショップ、音楽や講演、活動紹介、トークショーといった豪華なステージプログラムを開催。展示されている作品に見入っている方、お米や押し麦などが入っているレインスティックに耳をすませる方、手拍子で和太鼓の演奏や歌の発表を盛り上げてくれる方、それぞれのブースでも活発に意見交換が交わされていて、境界線や固定観念をひらいて、多くのつながりが生まれた1日となりました。

個人的には麦わら屋の作家さん（長谷川さんと赤井さん）の創作風景を間近で見られたことに感激。ガヤガヤしている場所で周りの人に注目されながらも、いつも通りに創作に取り組む眼差しと集中力は凄いですよね！



障害の有無に関わらず、お互いを認め合えること、誰もが文化芸術活動を楽しめる社会をつくること。今回の展示会では現状の課題と解決のためのヒントをたくさん共有することができました。まずは知ること、そして一緒に楽しむことを、今後も続けていけたらいいな、と思います。

企画の最初からご尽力いただいた小野さん、森下さん、ムーちゃん、そしてけやきウォークにつないでいただいた大出先生、本当にありがとうございました♪

「ひらく」～アートで世界をひらき、つなぐ



動画はこちらから



